

no	質問・意見	答弁
1	このビジョンを見て、すごく希望がある、とても明るい気持ちになった。作成いただいた方々には、本当にご尽力いただきまして、感謝を伝えたい。	
2	前回の教育の板橋からすると、個別の一つひとつのものが具体化され、非常に分かりやすくなった。	
3	めざしているところがすごく高い印象がある。1つずつ着実に進めていくという部分と、所管を超えて、地域団体、企業とも連携して、同じ目線を持っていくことが重要と感じている。	
4	これまでの10年とこれからの10年で何が違うのか。	教育ビジョン2025では、教育委員会の中で考えて、展開していたが、教育ビジョン2035では、教育委員会だけではなく、区長部局や地域、外との関わりを取り入れている点が変更点である。また、計画の冠をそろえたり、上位、下位と整理をしたりとか、10年間をそろえたりして全体で取り組む点が異なる。
5	次期計画がいかにして今日的な課題に対応していくかが非常に重要と考える。不登校問題はコロナ禍が大きく影響していると強く感じる。コロナを経験した世代とどう向き合っていくかが今後10年の大きな教育の課題になると考える。こうした今までと少し違う不安を抱えた世代にどう教育が向き合っていくかという考え方は、この教育ビジョンの中ではどのように示されているか。	計画では、すべての子ども、すべての大人ということで策定している。子どももや大人もポジティブに毎日を過ごしている人もいれば、たまたまそうでない人もいる。それらのすべての人に最上位概念として「教育は人が幸せになるためにある」というところを実現させていきたいと考えている。アクションプランでは、居場所というキーワードの中で考えていきたい。不安というのは、どの時代もあるものである。つながる力を大切にしていきたいと考えている。
6	いかに変化に対応するか、これまでの教育の常識というものを超えていく必要があると考える。AI社会の到来など、これまでの常識が通用しない社会に対応できる子どもたちをどのように育てていくかが教育に問われている。この点についてどのように考えているか。	体験や経験が重要と考える。体験したことを自分の経験にするには、自分の言葉で誰かに自分の言葉で伝えることで、体験を経験に変えていく、そして、経験値を上げていくことが重要と考える。経験値を上げていけるような教育、学びが、これからの10年間では必要になってくると考える。
7	体験、経験を重視して、変化に対応できる教育をやっていくためには、教育委員会と教員自身が自ら体験、経験を積んで、これからの変化に対応できる人間になっていかなければならない。教育委員会、区に勤める教職員の皆さんがいかにしてこれまでの常識を脱却して、新しい時代に対応できる人材になってほしいと考えるが、この点についてはどのように対応していくか。	「MIRAI SCHOOL いたばし -教育ビジョン2035-」が区の教育の羅針盤となるように考えているため、まず職員、教員自らが対応していくというところで進めていきたいと考えている。
8	自分自身を刷新していく、新たな体験、経験を大事にする中で、特にお願いしたいのは校長である。校長の中には保身に走ったり、権威で抑圧したりする人もいる。そうした校長に対し、毅然とした人事も時として必要になると思うが、その点についてはいかがか。	学校長は学校の教育活動を司るため、非常に大きな影響があると認識している。校長人事は、基本的には東京都教育委員会と連携して行っている。しかしながら、東京都教育委員会に、板橋区の新しいビジョンに対応できる校長の必要性を伝えながら、よりよい人材を確保していきたい。

no	質問・意見	答弁
9	教育委員会・次期各計画の名称変更について、個人的な感想は、未来という日本語にアルファベットを当てるとするのは非常に分かりにくいと思う。中身を見ていくと、共生、貢献、自立、創造というのはこれまでであった教育目標継承している点は非常に分かりやすいが、「心のあり方」は、どこから来ているのか。	自立・共生・貢献・創造を引き継ぐ4つのチカラはいずれも行動するためのチカラである。行動を起こすためには、心が行動できる状態になっていないと行動に踏み出すことができない。そういった考えのもと、「自己受容、他者貢献、他者信頼」という心の状態にしていくことの必要性があると考え、それらを総称する表現として、「心のあり方」という言葉を用いている。
10	次期各計画の名称の変更について、これからの10年のビジョンが示されており、「MIRAI」は明るいと感じている。しかしながら、Rの「つながり助け合うチカラ」の表現の仕方について、違和感がある。「周りの人を助けるために、社会に貢献するために、進んで手を貸し、取り組むことができる。貢献へのチカラ。」とあるが、「手を貸す、助ける」といった表現が、やや威圧的な印象を受ける。「誰かのために取り組むこと、自分ごとと捉えてできるようになる」ということがきっと趣旨だと思う。もう少し柔らかい表現に変えていただけたらと考えるがいかがか。	確かに、助けるとか手を貸すとか、少し上にいるような印象がある。原案まで修正は可能であるため、検討したい。
11	5つのチカラを具体的な事業として、これがここに結びついていって、これが結果として達成できましたよといった表現がされるものと考えますが、それではないということで認識でよいか。	事業とチカラが1対1の関係で当てはめる考え方はない。
12	5つのチカラという抽象的な効果というのをどのように測定していくのか、このあたり明確にしておく必要があると考えるがいかがか。	施策に対しては成果指標を設け、その目標値に近づけていくことを数値としてめざしていく。また、点検・評価において各事業を毎年評価していくことで、目標値に向けた事業の推進・改善につながっていくと考える。
13	「心のあり方」は、これまで教育でよく言われてきた生きる力というのとは全く別の発想で出てきたワードと捉えてよいか。	全く別ということはない。これまで、例えば生きる力であったり、生き抜く力であったり、それぞれビジョンの2025のほうには掲載していた。そういったことも含めて、未来に向かってそういった柔軟な心を持ってほしいということで、「心のあり方」というような言葉で表現した。
14	ビジョンで掲げている5つのチカラを区の教育現場でどうアクションプランとして具体化していくのかについて教えていただきたい。	5つのチカラは、それぞれ大切であるが、これをイコールそのままそれぞれの46事業に当てはめると整理はしていない。すべての施策を通して、それぞれの力をもってMIRAI SCHOOL いたばしを実現したいという考え方である。
15	「余白」とは、こういったものを指しているのか具体的にお示しいただきたい。	時間的・空間的・心理的余白を意味している。
16	このビジョンについて、どう地域とかに伝えていくのかというのは非常に大事と思っている。教員や子ども、保護者、地域の方々にどのように、伝えて広げていくのかというイメージを教えていただきたい。	現段階では、本日の文教児童委員会の報告が終わった段階で、ビジョンの内容を動画で学校にお届けすることを予定している。学校にお届けすれば、保護者や子どもも見られるようになっているので、まずそういったところから始めていきたい。また、ビジョンが3月に公表となった時点で、プレスも活用しながら広く知らしめていきたいと思っている。また、地域の方には、様々な地域の活動の場へ赴いて周知をしたいと考えている。

no	質問・意見	答弁
17	保護者、教員向けとなると、難しい言葉も入ってくる。子どもにはしっかりこれは見てほしい。今の学校にあまり期待が持てないと思っている子どもがこれを見ると、すごく前向きになるところもあるかなというふうに思うので、子ども向けで何か考えていることがあれば教えていただきたい。	例えば、学校内に掲示をしたいと考えている。よくある表彰状が並んでいるところの隣であったりとか玄関であったりすると、どうしても風景の一つになってしまうため、教室やお手洗いに掲示することで、子どもは小学校も中学校もずっと目にし続けて、いつの間にか未来ビジョン、M I R A I S C H O O Lといったものがご自分の中に取り入れられるのではないかと考えている。
18	子どもたちが「M I R A I S C H O O L」と言われたときに、イメージを自分たちの言葉で話せるぐらいにしっかりと根差すとよい。期待している。	-
19	計画を策定するにあたって、子どもの声を聞いていただきたいと思っている。様々な状況下にある子どもの声をきちんと受け止めて反映させていくことが、これからの時代に対応していくことにつながると思うが、見解を伺う。	ビジョンは10年間であるが、アクションプランは3年間である。3年ごとに、子どもの声やそのほかの方の声を反映させていくための区切りというふうに考えている。今回言葉の整理をしたり、新たな考え方を取り入れたりといったことがあったように、柔軟にやっていきたいと考えている。
20	パブリックコメントの段階で動画は間に合うのか。また、パブリックコメントを子どもが出すのは、難しいと思う。別途子どもたちの声をどうやって反映していくかということは仕組みが必要だと思うがいかがか。	資料編にあるとおり、ビジョンをつくるにあたって、子どもに対してのアンケートというのは取っている。また、今般初めての取組で、子ども家庭部が開催した子どもワークショップに教育委員会も参加して、例えば「楽しい学校ってどういうことですか」といったテーマでやりとりをして、子どもの声を反映したビジョンになっていると考えている。
21	素案が出た後の段階で子どもの声を反映させるということは難しいというスケジュールと理解でよいか。	確かにスケジュール的には難しい部分がある。動画は全校に届ける予定であり、生徒や保護者にも見ていただきたいと考えている。もしそこで様々な意見があったら、校長会を通して、吸い上げるというようなこともできると考えている。
22	機動的に動くということが出来る、教育委員会としての組織体制をつくっていく必要がある。現在どのような組織体制が教育委員会が必要としているか。	今回教育ビジョンでもお示した様々な政策、事業それぞれに力点を置いてやっていきたいと考えている。今の体制を維持しながらも、今後必要になってくるところは、変化に柔軟に対応して、組織も動かして対応していきたいと考えている。